令和6年度 第8号　　令和6年12月2日(月)発行
学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成
学校 Web ページ
↓↓↓

植竹中だより

目指す生徒像:自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」1日を満足させる　さいたま市立植竹中学校
〒331-0804　さいたま市北区土呂町352　TEL 048(663)2115　FAX 048(665)6377

素敵な本との出会いを

校長　上　続　昌　司

朝夕の気温はかなり低くなり、吐く息も白く冬の到来を感じるようになりました。正門前から続く銀杏並木も緑から黄色へと変化し、きれいな景色をつくりあげています。例年よりも遅い季節の変化ではありますが、確実に時間は流れている事を伝えてくれています。早いもので、令和６年も最後の１２月を迎えました。この１年を振り返り、「何ができて、何ができなかったのか」を各自が考え、次の１年に繋げることが大切ですね。

１１月のある日、私は３年生の戸山さんと話す機会がありました。それは、戸山さんが８月に行われた、さいたま市立中央図書館主催の「ビブリオバトル 2024 はぴの陣」で見事チャンプ本に選ばれ、この図書館が発行している１１月号の広報誌に掲載された事がきっかけでした。私は戸山さんが、どんな想いや考えでこのビブリオバトルに応募したのかを聞いてみたいと思い、話す機会を設けました。

戸山さんが紹介した本は、島崎藤村著「破戒」です。主人公の親友が、差別やいじめを受けた主人公に、態度を変えずに手を差しのべる姿に感銘を受け、「私たちにできることは何か。答えは一つではないし、分からないかもしれないけれど、考えることが大切だと思う」という想いをビブリオバトルで精一杯表現したそうです。話を聞いている中で、将来の夢について質問をしました。返ってきた答えは「将来、世界中の困っている人たちを救える仕事に就きたい」でした。相手が「何を考え、どんなことに悩んでいるのか」それに対し自分は「どんな事ができるのか」を伝えるそのためには、語学力を向上させることは重要であることも話してくれました。短い時間ではありましたが、戸山さんが話している時の表情は真剣そのものであり、しっかりと将来について考えていること、そして、今考えなければならない事、取り組まなければならない事が明確である事に驚きました。また、戸山さん自身、本を読むことが大変好きであることも話してくれました。小さい頃から読書の習慣があり、言葉の意味や著者の想い等について、じっくり時間をかけて考えながら読んでいくそうです。時には、気になる文章や場面について何度も読みなおすそうです。最近は、街から本屋さんが減ってきているという新聞記事を思い出します。時代の変化とともにデジタル化が進み、紙でできた本を手に取って読みふける事が少なくなったのが大きな要因だそうです。文章を読むことに変わりはないので、その手法が何であっても問題はないのですが、何か寂しいような気もします。読みかけの本が何冊かあり、読み始めると時間を忘れて読みふけってしまう。読んでいる時間は、「この先どんな展開になっていくのか」を想像し、ワクワクする感覚も経験できます。また、新しい知識や考え方に気づくこともできます。何より、読む力が身につき、人の話をしっかりと聴く力もついてきます。漢字を覚え、美しい文章表現を学習できることも魅力です。部屋の棚に本が並んでいて久しぶりに手に取って読んでみると、以前読んだ時の印象と違うことがあります。その当時は、あまり意味が分かっていなかった内容も、大人になり様々な経験を積んでから読んでみると、「なるほど」と思えるものです。読書の良さに気づき、本の素晴らしさを多くの人に味わってほしいものです。ぜひ皆さんも、冬休み等の時間を利用して、本を手に取り読書する時間をつくってほしいと思います。

最後になりますが、地域の皆様、保護者の皆様、２学期も本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきました事に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。